

平成26年度 小中学校の校務改善の推進（今年度の取組）

これまでの取組

- 経営支援部の設置と役割分担の明確化
- 校務のICT化

成果と課題

成果

- 経営支援部の設置校増加
(H24年度232校⇒H26年度434校)
- 校内組織と役割分担の見直し
- 校務のICT化の推進

＝ **ハード面の充実**

課題

- 現在の校務改善の取組は経営支援部の設置など、**組織の整備が中心**（25年度アンケートより）
- 教員の校務改善に対する**取組姿勢や意識の低さ**

ソフト面の充実の必要性

推進プロセスとスケジュール

スケジュール					
第1回	第2回	改善月間	事業発表会	第3回	表彰
7月上旬	10月	11月	11月中旬	1月	2月
○今年度の取組内容の検討	○今年度の取組内容の検討（中間） ○発表会事前報告 ○校務月間取組の事前報告	○校務推進OJTの説明 ○優れた取組の紙面紹介	○校務推進OJTの説明 ○優れた取組事例の発表	○OJT取組事例の報告 ○校務改善表彰の事前報告	○優秀な取組校の表彰

今年度の取組

校務推進OJT

OJTの観点から推進（校務改善のソフト面の充実）

OJTガイドライン 教員が身に付けるべき4つの力 **「④学校運営力・組織貢献力」の向上**（これまで取組が薄かった分野）

「学校運営力・組織貢献力」とは（OJTガイドラインより）

- 校務において**企画・立案**する力
- 上司や同僚とコミュニケーション**を取りながら、円滑に校務を遂行する力
- 組織の一員として校務に積極的に参画**する力
- 校務の問題点を把握し改善**する力

校務推進OJTの取組方法（例）

- 主幹・主任教諭を中心にプロジェクトチームを立ち上げて計画・推進**
- 若手教員を経営支援組織の構成員にし、様々な校務を経験させるとともに、実質的な推進役として参画**
- ベテランと若手でペアを組み、校務に当たらせるとともに、校務改善の取組にも参画**

検討課題①
実効性のある取組の情報収集と発信

**校務処理の
資質・能力の向上**

校務改善

- 各校務のスリム化
・教材研究の時間の確保
・自己研さんする時間の充実
- 副校長への業務集中の緩和
・教員への指導機会の増加
・地域との連携強化
・副校長のリーダーシップ強化

副校長の業務負担軽減

校務スキルの高い教員⇒より校務改善が推進
～同じ職務を継続して担当～

人材育成

若手

- 短期間で様々な校務を経験し、資質・能力の向上
- 校務処理能力に対する自信の向上
- 先輩教諭のモデリングによるキャリアアップへの意欲

主幹・主任教諭

- 学校マネジメント能力の向上
- 計画的な若手育成によるミドルリーダーとしての自覚
- 若手教員に対する先輩としてのモデリングとキャリアアップへの自覚

職層に応じた経営参画意識の向上

多様な職務を経験⇒より人材育成が可能
～計画的な校内ジョブローテーション～

検討課題②
ジョブローテーションの在り方

人材育成基本方針に反映

管理職確保